

家計調査年報を用いた高等学校家庭科の課題研究の教材

○浅野久子* 池添奈都子* 井野美保* 横江真理子* 藤原康晴**

(*鳴門教育大院生 **鳴門教育大)

【目的】課題研究は、課題解決型の学習であり、個人あるいはグループで適切な課題を設定し、その課題の解決を図る学習をとおして問題解決の能力や自発的・創造的な学習態度を育てる（学習指導要領）のが目標とされている。この報告は、家計に関する課題を設定し、マイコンを用いてその課題を解決する教材に関するものである。家計調査年報のデータはこれまで専門の研究者による分析に用いられ、その結果が「家庭一般」の教科書へもよく引用されてきた。その後、そのデータを入力したフロッピーディスクが市販され、家計に関する諸問題を手軽に分析できるようになった。ここでは、課題研究において、このデータを教材として用いるとき、家計に関してどのような課題が設定でき、それをどのようにして分析し、その結果をどのように表示するかを例示した。

【方法】このデータはパソコンの表計算ソフトウェアでそのまま使えるように編成されており、表計算ソフトの計算、配列などの機能、グラフ表示機能を用いて分析、表示した。

【設定した課題と分析結果の例】時系列変化として、「家計の支出構成比の変遷」、「消費者物価指数の算出」、「食料費や衣料費の内訳の推移」などの課題を取りあげ、分析結果を例示した。次に、収入階級別データを用いた「支出弾力性」の算出、年齢階級別データを用いて「年齢による支出構成比の違い」、「高齢者の家計の特質」などの課題を分析した。なお、地域別のデータはこのフロッピーディスクには入力されていないので、別に入力して分析した。この他、エネルギー消費、野菜、果物の無季節化、外食割合の増加などの家庭生活の変化に対しても、表計算ソフトの各種機能を用いて分析、表示した。